



誰もが安心して 地域社会で暮らして いけるように

今月の担当

社会福祉係長
小島 敦志

地域福祉センター社会福祉係
(☎52-3333)

【ケース1】

障がいのあるAさんは、生まれてから両親と一緒に住んでいます。高齢である両親は、現在健康でAさんの世話ができますが、近い将来自分たちが亡くなった後、Aさんの生活はどうなってしまうのか不安を抱えています。

【ケース2】

50代のBさんは、学校を卒業後に就職しましたが、長続きせず退職し、そのまま自宅にひきこもりました。現在は両親の年金により生活しておりますが、80代の両親は持病もあり、限られた年金での生活も苦しく、Bさんに自立してほしいと願っておりますが、現状では難しく、子どもの将来を心配しています。

【ケース1】は、「親なき後」問題、【ケース2】は、「8050」問題といわれており、高齢化が進む日本において社会問題化しております。

国は、このような問題を解決し、障がいのある方などが地域社会の中で安心して生活していけるように、各市町村などに地域生活支援拠点などの整備を求めています。

この拠点などは、以下の内容を備えたものになります。整備することで、緊急時に施設を利

用したり、将来に備えて親から自立した生活を体験するなどが可能になります。

- ・相談（地域移行、親元からの自立など）
- ・体験の機会・場所（一人暮らし、グループホームなど）
- ・緊急時の受入れ・対応（ショートステイの利便性・対応力向上など）
- ・専門性（人材の確保・養成、連携など）
- ・地域の体制づくり（サービス拠点、コーディネーターの配置など）

現在、置戸町では、障がい者施設などがなく、専門性の高い職員の配置が困難であることなどから、近隣の北見市、訓子府町と共同での整備を検討しております。

共同設置を進めるにあたり、平成30年4月1日現在に16歳から65歳の方で、障がい者手帳をお持ちの方や、難病をかかえている方などを対象としたアンケートを実施しております。このアンケート結果をもとに、どのような形で整備するべきかを検討していきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

喜びと悲しみ(敬称略)

■ご出生おめでとうございます

- 佐藤 典幸 男児 陽幸 (はるゆき) 宮下 9/13
- 菅野 優作 女児 知絵 (ちえ) 北光第二 9/27

■ご結婚おめでとうございます

- 山重 有輝・伊佐 若奈 宮下 9/13

■お悔やみ申し上げます

- 内田 幸吉 80歳 緑清園 9/23
- 五十嵐仁之助 92歳 拓実 9/23
- 東海林 實 85歳 豊住 9/25
- 菅原 浅次 94歳 栄第一 9/29
- 小岩 稔 87歳 中央 10/6
- 岡田 良助 92歳 豊住 10/8

人の動き

- 世帯数 1,453世帯 (-5世帯)
- 人 □ 2,922人 (-5人)
- 男 1,357人 (-3人) 女 1,565人 (-2人)

平成30年9月30日現在()内は8月末比

編集後記

☆季節は秋から冬へ。インフルエンザや風邪にお気を付けください。☆2019ふるさとカレンダーを製作中です。使いやすさと素敵なおけとの風景や人々の表情をお届けできるように頑張ります。 (㊟)